

人柄や政策をそれぞれの職場の仲間

兵教協・泉雄一郎議長



私たちの命運をかけた敵しい闘い

6年前の参議院選との情勢の違いについてふれながら、今次参議院選における情勢の厳しさにあわせて皆さんと認識を共有し、2人の議席獲得にむけたとりくみの意思統一をはかりたい。

6年前の2010年は、民主党が政権の座にあった。従って、兵庫県には衆議院12の選挙区のうち、10人の現職民主党衆議院議員がいた。こうした現職の衆議院議員のご支援も得て、みずおかさんは2番目の得票で当選した。

しかし12年の衆議院選で自民党が政権に復帰して以降、おおかさか維新の出現も

あり流れが大きく変わってしまった。13年の参議院選と14年の衆議院選では、比例代表の兵庫県における民主党の得票は、自民党、維新の会、公明党に続いて4番目の得票に甘んじる結果となっている。

しかし結党後の世論調査によると、民進党への支持率は合流前を下回る。比例代表なたにやさんにとっても、民進党への支持率の低下による当選議席数の減少が危惧される。なたにやさん個人の得票を上乗せしなければ議席を守ることができない。これも日教組の命運をかけた参議院選となる。

6年前に民主党は比例代表で16議席を獲得し、なたにやさんは民主党の中で9番目で当選した。13年の参議院選では、選挙区と同様に比例の獲得議席数も大きく減らし、7議席にとどまっている。

教育の議席を何としても

本日配布した『教育ひょうご』(5月14日付・号外)には、教職員の多忙化解消に関わる国会での質疑の状況を掲載している。私たちが声を国会で代弁してくれ、みずおかさん、なたにやさんの議席は子どもたち、教育の議席である。何とし



元参議院副議長
みずおか俊一 励ます会
本岡昭次会長



現場の実態をふまえた政策実現にむけて

先日の新聞に「教員悲鳴 忙しすぎる」という記事が載っていた。これは北海道教育大学、愛知教育大学、東京学芸大学、大阪教育大学の共同調査結果をもとにした記事で、仕事にやりがいを感じつつ、多忙でゆとりを持っていない教員たちの姿を浮き彫りにした上で、「教育行政は現場の実態をふまえ、教員の声をもっと政策に活かすべきだ」と指摘してまとめられていた。

私は本当に嬉しかった。この射た指摘を読んだときに、「どんなことがあつ

ても、あるべき教育の未来を見つめて頑張っているのみずおかさん、なたにやさん、今回の選挙で勝たさなければならぬ」と強く決意を固めた。教職員の定数の大幅増、学級定員の少人数化、あるいは高等学校の無償化。すべてが教育現場の実態、格差のない教育をつくり出していくという我々の悲願を叶えるべく、国会の中でこの2人が頑張っておられる。

「この現場の悩み苦しみを解決してくれるのは誰か」「子どもの幸せを本當につくり上げてくれるのは誰か」。選挙のときこそ、このことを真剣に訴えて闘っていく力が、兵教組から弱まっていくというようなことがあつては決してならないと私は思う。

情勢は非常に厳しい。兵庫県の選挙も、全国の比例代表の選挙も生易しいもの

という歴史的な証左を目の当たりにしている所だ。「教え子」を再び戦場に送るな」という見出しや言葉の控え、国民に期待を持たせる報道に徹している。このように政府による情報操作はあまりに目に余るもので看過できない。

教育においても政府見解を明記した教科書検定や、道徳の教科化、教員制度改革や政治活動規制など、戦前の国定教科書づくりと軌を一にする教育統制の動きもある。平和と教育の危機は常に同時にやってくる

ではない。だからこそ私たちがこうして集まったとも言える。しかしもう一方を考えると、夏の投票日までまだ日はある。1日にどれだけ私たちがとりくみをやっていくか。お願いをするか、電話をかけるか、手紙を書くか。まさにその積み上げが結果として現れる。残された日々を、私たちが頑張り抜けば、必ずこの困難の壁を突き破って選挙に勝つという、あかるい状況をつくることは不可能ではない。お互い兵教組の団結を信じて、仲間を信じて残された日々を頑張り抜いていただきたい。

投票日、但馬から淡路までそれぞれ場所は違っても、みんな「みずおか万歳、なたにや万歳」と心から祝杯をあげられるように、私も頑張っていきたい。団結は力、力は勝利。兵教組の合言葉。今こそ皆さんに実践をお願いしたい。

で国政の場で子どもの教育、平和と民主主義を大事に奮闘してきた。これから教育と平和のために活躍できるのは、比例代表においてなたにや正義さんしかない。なたにや正義さんは日教組の看板そのものである。

新自由主義による貧困と格差の拡大、憲法改正へと突きすすむ安倍政権の暴走を止めるために、来たる7月の参院選は日教組の存亡のみならず、この国の平和と民主主義の行く末を左右する重大決戦だ。皆さんのこれまで以上の力強いご支援を切にお願い申し上げます。



平和と民主主義を破壊する安倍政権

安倍政権において貧困と格差の問題は深刻さを増している。これまでの一億総中流幻想は吹き飛んだ。所

得格差が教育格差となる子どもの貧困、貧困の連鎖は社会問題化している。憲法25条の生存権が脅かされ続けている。自己責任でないことで苦しむ不条理に怒りを禁じ得ない。

最大の争点である平和と民主主義の問題にふれた。特定秘密保護法に続いて、戦争法である安全保障法が3月に施行された。安倍政権は「積極的平和」「平和と安全法」と巧みな言葉で国民をごまかし、憲法違反である集団的自衛権の行使

を可能にし、憲法改正、戦争のできる国づくりへと突きすすんでいる。過去の侵略戦争への深い反省に基づき、日本国憲法の下での戦後70年にわたる平和国家、民主国家としての歩みを否定し、本来為政者を縛るための立憲主義を破壊している。武力で平和はつくれない。

情報操作と教育統制の動き
すでに破綻しているアベノミクス。実現不可能な新

3本の矢」について、マスコミは「破綻」や「実現不可能」という見出しや言葉を控え、国民に期待を持たせる報道に徹している。このように政府による情報操作はあまりに目に余るもので看過できない。

教育においても政府見解を明記した教科書検定や、道徳の教科化、教員制度改革や政治活動規制など、戦前の国定教科書づくりと軌を一にする教育統制の動きもある。平和と教育の危機は常に同時にやってくる

教育政策は政治の場で決着する
一方で、教育政策の最終決着は政治の場であることから、私たちがもめる政策の実現には、肌感覚で学校現場の声を代弁できる日政連議員抜きには考えられ

ない。歯止めのない自発的勤務は国際的にも強く指摘されているが、先日の文教科科学委員会の質疑においてみずおかさんは、管理職による勤務時間把握について、「誰かが告発したらどうする」と馳文科大臣を質し、大臣をして「合口を付けられたような思いであります」と言われしめ、管理職責任に言及せざるを得ないところまで厳しく追及した。今の学校現場の実態を熟知するのみずおかさんにしかできない質問であり、真実にもとづく熱い代弁者であることが理解できると思う。

なたにやさんも、これま

平和と教育の危機は同時にやってくる

決着する

なたにやさんも、これま

なたにやさんも、これま

なたにやさんも、これま

なたにやさんも、これま

なたにやさんも、これま

ラッセホール 15周年記念
バンケットプラン
6/1(水)▶8/31(水)

2時間制 20名様から
お料理+フリードリンク お一人様(税別・サービス料込) **5,000円**

《卓盛りメニュー》
●豚冷しゃぶサラダ ●自身魚の白身揚げ スイートチリソース
●鮭と南瓜のカプレーゼ ●トマトの冷製パスタ
●サーモン炙り薄造りからし酢味噌仕立て ●ビーフカレー
●若鶏の唐揚げ ●フルーツ&デザート
●酢豚 ●コーヒー

《フリードリンク》
●瓶ビール ●焼酎(麦/芋) ●ウイスキー ●赤/白ワイン ●日本酒
●ウーロン茶 ●オレンジジュース

注意事項
※ご延長の際は30分につきお一人様500円(税別・サービス料込)の追加料金をいただきます。※記載メニューは食材の入荷状況により変更場合がございます。
※料金には、お料理・フリードリンク・音響・照明費(ワイヤレスマイク2本付)・会場費(2時間)・税金・サービス料が含まれております。

その他、オプション等、多数をご用意しております。お気軽にご相談ください。

ご予約・お問合せはこちら 宴会予約 **078-291-1110** (宴会予約直通) お問い合わせ時間 平日・土・日・祝 9:00~19:00
日・祝 9:00~18:00

ラッセホール
〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通4丁目10-8
TEL.078-291-1117 (代表)
FAX.078-291-0333
https://www.lassehall.com E-mail info@lassehall.com

ラッセホール 夏祭り開催! 8/2(火) 10:00~18:00